

大阪文化とミナミの街づくり

明治18年(1885)日本初の純民間資本による鉄道会社として創業した当社は、今年120周年を迎えました。長い歴史の舞台となったのは、創業の地である難波を核とした大阪ミナミ、そして沿線の各地域です。現在も「街とともに栄える企業」として歩む当社は、今後地域の街づくりと文化創造にどう貢献していけるか、山中諄社長と関西地域文化の振興に情熱を注ぐ文化プロデューサー河内厚郎氏が語り合いました。



山中 諄 社長

河内 厚郎 氏

文化プロデューサー

歴史が育んだ 南海沿線の魅力

山中 近代日本の都市の成長は鉄道とともにありました。特に関西における都市圏の発展には、当社を含む私鉄の寄与するところが大きかったと思います。先生は阪神間の文化を研究しておられますが、南海沿線にはどんな印象をお持ちですか？

河内 私は阪神間に生まれ、長年その街並みを見てきましたが、阪神淡路大震災で多くの建物が失われてしまいました。その点、南海線に乗って羽衣とか浜寺公園のあたりを見ていると、「ああ、昔あった家やな」というところが結構残っているんですね。日本で最も古い私鉄沿線ならではの歴史を感じます。

山中 確かに長い歴史を感じさせますね。

河内 南海沿線は文化的にも重要な役割を果たしています。私が編集長を務める「関西文学」で関西の近代文学がいつごろ始まったのかを調べたのですが、大正から昭和の前半にかけて、住吉あたりに作家たちが住んでいて、ちょっとした文壇を形成していた。私たちはそれを



浜寺公園駅



堺駅西側の与謝野晶子像

「住吉帝塚山文壇」と命名したのですが、大阪の歴史の中で、その辺りがややもすると忘れられているようで、もったいないと思います。

山中 そうですね。芸人さんたちの住む「てんのじ村」などはよく取り上げられるのですが。

河内 庶民的な街としてだけではない、もっと多彩な魅力が、このエリアにはあります。ちょっと専門的なことを言いますと、明治時代に、宇多川文海という住吉在住の新聞記者出身の文士がいて、この人を信奉する人々が『墨江(すみのえ)』という雑誌をつくりましてね。詩人の伊東静雄も住吉中学の先生でしたし、南海沿線には近代文学を育む素地がありました。

山中 与謝野晶子は有名ですが、それ以外にも豊かな文学の土壌があったのですね。

河内 住吉帝塚山文壇の流れは太平洋戦争後にも及び、阪田寛夫や庄野潤三といった作家たちに受け継がれます。そんなモダンな文化の流れが今すっかり忘れられてしまっているわけです。

山中 掘り起こしてみれば興味深い歴史の話題は、沿線のあちこちにあるんでしょうね。

河内 沿線のにぎわいを生みだす文化ソフトは、ある時期は文学、ある時期はプロ野球だ

profile

河内 厚郎(かわち あつろう)氏

昭和27年(1952)兵庫県生まれ。一橋大学卒業後、演劇評論などの執筆活動に入る。昭和62年から「関西文学」編集長をつとめるとともに、文化プロデューサーとして関西文化の活性化に力を注ぎ、大阪市「咲くやこの花賞」など数々の賞を受ける。現在、夙川学院短期大学教授など役職多数。





ったりと、時代によって変わります。沿線を魅力的な街にするためにはどんなソフトをどう利用していくかが問題なのだと思います。

山中 おっしゃるとおりです。

沿線の価値を高めるためには

山中 当社は創業120周年以降の目標の一つとして「沿線の価値を高めること」を挙げています。そのためにも、市民や自治体と一体となって、沿線の魅力を発掘して広く発信していく必要があります。

河内 歴史的なものばかりでなく、現在も魅力的なポイントはたくさんありますよ。例えば、泉北では、パンやケーキのお店が増えています。いいケーキを作る店の登場は街の成熟の印だというし、新しいブランドも今、育ちつつあるの

ではないでしょうか。

山中 光明池など、泉北ニュータウンでも新しい方のエリアはそうですね。新しい世代が入居していますから、街自体が若い。一方、堺の旧市内には老舗がたくさんあります。室町時代から続いていたり、創業天保年間とか、そういうところが脈々と事業を続けているのはすごいなと思います。

河内 そういう沿線の街の魅力は、南海線のブランドとして十分世界にPRできると思うんですよ。

山中 「堺はおもしろいから行ってみよう」という人をもっと増やしていくことができるはずですね。

河内 それと最近のことですが、高野山にはびっくりしました。福智院という宿坊で温泉が湧いて観光客に公開したというので、どんなものか行ってみたら、スペイン人の観光客がたくさん来ている。私たちも知らない間に、海外へのIT発信を成功させていたようです。

山中 それはびっくりしますね。高野山は世界遺産の登録でこれまで以上に脚光を浴びるようになりましたが、お寺の方でもいろいろやっているのですね。

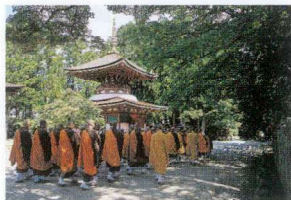
河内 ちゃんと英語が使えるお坊さんもいるらしいんです。そういう人を用意している。そのほかにも庭のライトアップなど、外国人を意識した演出を行っています。

山中 やはり旧態依然とした形で持ちこたえられる時代ではなくなってきたということでしょうね。

河内 このほか、和歌山市では、戦前からの古いビルに開かれた陶芸の店に若い人が集まったりもしています。オーナーはとても意欲的な人で、建物の古さを逆手にとったレトロ調のイメージで注目されているわけです。



堺東駅周辺



高野山

山中 和歌山市駅周辺の活性化は当社にとっても重要な課題で、興味深いお話ですね。駅前商店街の衰退は全国的な傾向ですが、そんな状況を変えていくには、若く意欲的な人の努力が欠かせません。

河内 確かに「人」の問題は大きいですね。

山中 沿線価値を高める上で今一つ大きなポイントとなるのが、関西国際空港です。関西と世界を結ぶ玄関口という位置づけは今も変わりませんが、現在の利用状況や乗り入れ先の数を考えますと、なかなかそこまでいっていない。それでも平成19年予定の第2滑走路供用開始は大きなチャンスであり、それに向けた難波や沿線各地の開発が必要になってきます。

河内 外国人に聞いても、関空の印象は悪くはないんです。ただ「もう少し日本文化を感じさせてほしい」という声があります。成田空港だと、外国人が乗り継ぎで生じた空き時間を使って、市川団十郎家ゆかりの成田山新勝寺に行ったりします。だから、2、3時間の空き時間をどう使ってもらうか。これを考えると、もうちょっと周りの自治体も知恵を使う必要があります。

山中 その2、3時間に商品を提供して少しでも地元にお金を落としていただくにはどうすればいいか。これは大事な課題ですね。考えてみると、やるべきことはたくさんありますね。

河内 期待ということであれば、平成21年には阪神電鉄西大阪線の延伸で、阪神間とミナミが直通で結ばれるそうですね。これはちょっとした事件ですよ。

山中 私たちも大いに期待してしまして、ミナミに今までにないものが生まれると思いますね。とりわけ鉄道各社のターミナルである難波は広大なネットワークの核となります。それに備えるためにも、今後も難波の再開発を進めていく必要があります。



関西空港駅



大阪球場

南海の原点 難波への思い

山中 難波は何ととっても南海の原点ですから、当社の思い入れには独特のものがあります。この街に関しては「難波といえば南海やで」という自負を、社員みんなが持っている。それだけに、当社には難波の将来に対する責任があると思っています。

河内 社長ご自身もたくさん思い出をお持ちなんでしょうね。

山中 そうですね、私が入社したのは昭和40年のことですが、その頃見た難波や道頓堀とか心齋橋といったミナミの街並みには、何かね、胸ときめくというか、そんなところがありましたよ。

河内 ちょうど南海ホークスの黄金時代ですね。鶴岡監督のもと、素晴らしい選手がたくさんいました。



山中 ええ。大阪球場にもよく応援に行きました。そんな思いがあったものだから、球場の跡になんばパークスを建設する時も「南海ホークスの思い出を何らかの形で残さなければ」と言ったんです。

河内 それで、なんばパークスにホークスのメモリアルギャラリーやプレートが設置されたわけですね。

山中 往年のファンや元選手の方々にはとても喜んでいただけました。球場の形こそなくなったけれども、歴史は大切にしていかなければ、と思っています。何でも新しいものに取り替えてしまって、それでいいというものではないですね。

河内 高島屋や以前南街会館があったあたりは難波でも最も歴史を感じさせる一帯ですが、開発は今後どうなっていくですか。

山中 建物のオーナーとして、高島屋さんのご希望もうかがいながらリニューアルを進めていく必要はありますが、大きく変えることはないでしょうね。

河内 やはり、全く違う街になってしまうと、ちょっと寂しいですね。

山中 そうでしょうね。あの一帯の眺めは私も



南海ホークスメモリアルギャラリー



南海ビル

好きです。テラコッタ(装飾用素焼陶器)で覆われた外壁などが歴史の重みを感じさせてくれる。ヨーロッパの都市開発では、歴史のある建物の場合、中は変えても外観は残しています。このビルも、外観は残していきたいですね。何もかも壊して新しいものを建てるというのも一つの方法ですが、そればかりだと街から歴史の重みがなくなってしまいますから。

河内 キタは今、大きく変貌しつつあります。これからも高層ビルが増えていくでしょうが、ミナミも同じというのでは寂しい。どこかに歴史の重みのようなものを残してほしいですね。

山中 同感ですね。私は常々「ミナミらしさ」を大切にしていかなければならない、と言っているんですよ。キタにはキタの魅力がありますが、街としてのイメージには東京に近いものがあります。大阪の本来の個性を残すミナミが同じような形になってしまっはいけない、と考えています。

ミナミに 新たなスポットを

山中 ミナミらしさを大切にするとっても、現状のままでいい、というわけではありません。今まで以上に、おおぜいの人たちが楽しめる街になってほしい。そのために何をすべきかという、宣伝も必要ですが、それ以前に、おのずと人が集まってくるような魅力ある場所を作っていく必要があります。

河内 難波も含めたミナミの個性は、豊かなエンターテインメント性にあるのではないかと思います。ちょうど、ニューヨークのブロードウェイやロンドンのウエストエンドのように。だから、それを



生かす方向がいいでしょうね。

山中 そうですね。ミナミには松竹座、国立文楽劇場、新歌舞伎座といった劇場がありますし、道頓堀は連日おおぜいのお客さんにぎわっています。こういう独特の空気は、キタにはありませんね。

河内 かつて「道頓堀五座」と呼ばれる五つの芝居小屋を中心に娯楽のメッカとしてにぎわってきた伝統が、今でも息づいています。ミナミに魅力的なスポットを増やしていく上で、私はこの「五座」を利用できないものかな、とっているんですよ。

山中 五座を復活させるのですか。

河内 ええ。といっても、芝居小屋を建てる必要はありません。既にある松竹座や国立文楽劇場、新歌舞伎座に他の劇場を加えて「新ミナミ五座」を制定すればいいんです。そして五座のうち一つは、舞台を映像で見ることができる劇場にします。

山中 舞台を映像で観るとするのは、新しいタイプの娯楽ですね。

河内 松竹が最近「シネマ歌舞伎」と銘打って始めたんです。これが結構人気を呼んでいるんですよ。

山中 なんばパークスの第2期の建物にシネマコンプレックスが入るんですが、松竹や東映の社長と話した時に、地方で歌舞伎を見られるようにしたいという話が出ましてね。映像にすることで可能になるんじゃないか、と。もう本格的にそういう試みが生まれているんですね。

河内 大阪では現在梅田の方で上映していますが、道頓堀五座の歴史を持つミナミでこそやってほしい。近所に松竹座もあることだし、上映に加えて役者さんに顔を出してもらうとか、いろんな工夫が可能です。初心者にも親しみやすい見せ方をすることで歌舞伎の観客層も広



がっていきます。

山中 先生のお話をうかがっていると、街を魅力的にしていくためには、まず自分たちでアイデアを積極的に打ち出していく必要があることを痛感します。人のやることにあれこれ言うよりは、むしろ「こういうものをつくっていい」と言ったほうが力も入りますし、おもしろいですね。

河内 もともと長年の文化的蓄積があるおかげで、何かちょっとプラスしてつけ加えるだけで、十分使用に耐えるアイデアを生みだせる。これもまた、ミナミの強みです。



道頓堀



松竹座

街づくりがひろく 大阪と南海の未来

山中 私は社長に就任した時から、「お客さまとともに」という言葉を掲げています。私たちは当社を利用してくださる方々、とりわけ沿線地域の方々に支えられていっしょに歩んできたわけで、それを忘れてはならない、ということです。地域の発展に貢献してきたという自負と同

時に、これからもますます地域の信頼を得られるようであればならない、と考えています。

河内 これからの時代は、いっそう地域の信頼が重要になるということですか。

山中 ええ。この10年を振り返ってみますと、関西国際空港の開港がもたらした可能性に期待が集まると同時に、輸送人員の減

少という厳しい状況が訪れ、また会計基準の変更への対応が求められた。そんな状況を、苦しい思いしながらも改革で乗り切って、なんばパークスを開業した。言ってみれば「破壊と創造」という表現がふさわしいような時代だったと思います。今私たちはさらに10年後を見据えて時代のニーズに合致した発展を目標としているわけですね。

河内 先ほどからおっしゃった街づくりへの思いは、そういう展望を踏まえたものなんですね。

山中 そうですね。そのためには目先の利益追求だけでやっていくのではだめで、あくまでも地域社会を絶えず意識しながら、貢献していく必要があります。そうして沿線価値を高めていくことで、目標である「全国的に信頼される南海ブランド」を確立できるのだと思います。

河内 なんばパークスで街の真ん中に緑を持ってこられたのは画期的でしたね。あれは全国的にも大きなインパクトを与えたと思いますが、今後はどう展開されていくのでしょうか。

山中 現在、なんばパークスの第2期工事が平成19年春のオープンに向けて進行しています。第1期では30代前後のキャリア女性を主要ターゲットにテナントをそろえましたが、それ以外の層のお客さまにもおおぜい来ていただいています。第2期では、幅広い層のお客さまにご利



パークスガーデン



なんばパークス第2期工事

用いただけるよう、お子さまからお年寄りまでをカバーできる店舗構成を考えています。先に申しましたシネマコンプレックスなどもその一つです。

河内 あらゆる層の老若男女が集える施設になっていくのですね。

山中 商業施設として利益を上げるだけでなく、開かれたスペースとしてミナミの街ににぎわいを作り出すという使命がなんばパークスにはあります。第2期では、真夏や真冬も含め、四季を通じて人々を呼び込めるような施設を作っていこうと考えています。

河内 大阪の活性化を願う一人として、南海さんにごんばっていただいて、活気あるミナミにしていきたいと期待しています。

山中 大阪はまだまだ変わっていくでしょうが、難波を含むミナミの街がなくなることはありません。南海もまた、世代交替を繰り返しながら活性化への取り組みを続けていこうでしょう。120年は一つの区切りであって、未来はさらに広がっているのですから、なんばパークス第2期完成後もさらに新たな取り組みを考えていく必要がありますね。